

令和4年1月1日

第48号

早稲田大学

## 武蔵野稲門会報

WASEDA BEAR  
©2000 WASEDA UNIVERSITY

発行 武蔵野稲門会

〒180-0001  
武蔵野市吉祥寺北町3-5-3-601

TEL 090-9822-7140



「井の頭公園の日の出」

撮影 山下倫一(1971・商)

当会 写真同好会

## あけましておめでとうございます 武蔵野稲門会会長 諸江 昭雄(1963・法)

もろえ あきお

武蔵野稲門会のみなさま、あけましておめでとうございます。お変わりはございませんでしょうか。当会の役員を代表して新年のご挨拶を申し上げます。

令和3年は酷いコロナ禍の最中、東京オリンピック・パラリンピックも無事に開催されアスリートたちの活躍でひとときの感激に浸ることが出来ました。母校早稲田出身競技者の活躍も目覚ましく胸を張れる一年でした。秋以降、コロナ感染者は劇的に減少し、政府と自治体も集会や飲食の規制を緩和してきています。令和3年は残念ながら新年会と総会を見送りましたが、いよいよ令和4年の新年会を開催すべく準備を進めております。伝統ある稲門会はやはり校友が一堂に会し、たとえマスクを着用していても「都の西北」を歌うことで気持ちが一つになります。この熱い思いを胸に1月30日(日)武蔵野スイングホール11階のレインボーサロンにて開催の新年会にお集まり願いたいと思います。

2022年もコロナウイルスが手を抜く気配はありません。然し、いたずらに恐れることなく、油断することもなく、みなさまの誰一人欠けることなく元気な顔を見せて下さい。感謝合掌

## 「令和4年(2022年)武蔵野稲門会新年会」のお知らせ

下記の通り行います。皆様ふるってご参加下さい。

## 記

日時 令和4年(2022年)1月30日(日) 14:00~

会場 武蔵野スイングホール(JR武蔵境駅北口駅前)11階 レインボーホール

会費 2,000円(予定)

詳細は同封の別紙「新年会のご案内」をご覧ください。

## 事務局からのお知らせ

### 武蔵野稲門会令和3年総会・書面審議の集計結果

会員数186名の内、過半数の109名の方から返信ハガキにて回答を頂きました。集計結果は下記のとおりです。

第1号議案（令和2年度一般会計決算報告・特別会計決算報告）

賛成101票 否0票 会長一任8票

第2号議案（及び令和3年度一般会計予算案・特別会計予算案）

賛成102票 否0票 会長一任7票

以上、賛成多数にて、1号議案・2号議案ともに可決されましたので、ご報告申し上げます。

### 事務局連絡先の変更のお知らせ

谷中竜雄 事務局長代理

<住所> 180-0001 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-5-3 601

<電話> 090-9822-7140

<メールアドレス> info@musashino-toumon.itigo.jp

## 新会員自己紹介

### 「地域で仲間作りを」

おおむら たけし  
大村 武志 (1983・政経)

政治経済学部 経済学科卒  
(都立石神井高校1978年卒)

早大チロリアンスキークラブ所属(全日本スキー連盟正指導員、B級検定員)

趣味：テニス、スキー、ゴルフ、水泳

建設機械メーカーであるコマツに1983年に入社。

2000年以降ドイツ、米国、メキシコにて計10年の海外駐在を経験。

ドイツ時代にはデュッセルドルフ稲門会、米国時代にはデトロイト稲門会、と海外で稲門会に所属しておられる方々と各種イベントで楽しく交流させていただきました。

元々練馬区石神井で育ち、武蔵野市には知り合いも殆ど居ないため、武蔵野稲門会を切っ掛けに地域で仲間づくりをしたいと思い、この度武蔵野稲門会に入会させていただきました。



## <追悼>

### 瀧本尚男さんを偲んで

やまのうち いわお

山内 巖 (1968・理工)

7月にお亡くなりになりました瀧本尚男(S38法)先輩の思い出について述べさせていただきます。私は16年ほど前に、轟元会長の要請でカラオケ部会の会長を引き受けさせていただきました。

会場は瀧本先輩の会社のビル地下をお借りしました。先輩はさすがに歌がお上手で新しい歌を次々に披露していただきました。

またゴルフの方もコースを持っておられて熱心にされていたのを覚えています。

私が、稲門祭の記念品販売役員をしていた時、記念品購入時の抽選券の一等番号が先輩に見事に当選しました。その時、先輩は会社にいらしたのですが、私は皆様の抽選券を預かって大隈講堂で抽選会を見守っておりました。そしたらビックリ当選番号の抽選券を確認したらそれが先輩の券でした。すぐに先輩に連絡したところ、先輩も驚いた様子で信用して頂けませんでした。

当たった車は「ヒュンダイの車」でしたが、初期保険代など一応了解していただきなんとか引き継ぎました。

その後、お礼ということでゴルフにも同行させていただきました。大変穏やかな方でした。例の車は1年後に中古車として処分されたようでした。

38年卒業の先輩の方々は当会に結構おられるのですが、皆様 仲の良い友人達と聞いております。

昨年、今年とカラオケ部会の活動は自粛中で、訃報を突然お聞きして大変残念です。

天国でカラオケとゴルフを楽しんで下さい。

合掌

## 新しい同好会を準備中です

### 「日本酒同好会」

- ・日本酒講座
- ・酒蔵見学、試飲

詳細は追ってお知らせします



# 「2022年への抱負」

## 会員の皆さまから2022年への抱負をお寄せいただきました

### 箱根旧街道を歩く

よだ むらじ  
依田 連 (1967・商)

昨年の大晦日に久しぶりにNHK紅白を観た。これまでこの番組を敬遠し裏番組ばかりを見ていたが、その日はなぜか新しい年を前にして長引く自粛生活のストレスからか、わが身の上に漠然とした不安を覚え、今年の紅白が最後の見納めになってしまうのかなどの悪い連想もよぎったので、このチャンネルに変えてみた。画像では妖精のように華やかな立ち廻りをする紅組・桑子アナの大はしゃぎぶりに対し、相方の白組・司会者の騒々しさに閉口しながら観ていた。ほどなくして睡魔に襲われ眠りこけてしまった。目が覚めると新年の鐘が鳴っていた。漠とした不安も消失していた。こうして「わたし」の2021は始まった。

ほどなくして春先からコロナの新しい波で患者が急増していた。こんな状況悪化のなかでのオリンピック開催で一日とて気持ちが休まることのない夏の日々を過ごすハメになった。秋口に入るとワクチンが効いてきたのかコロナの波も沈静化し、長いトンネルのなかに一点の灯りが見えてきた。

この好機をみすみす見逃す手はないと思いたち、10月最後の週末に箱根旧街道を歩いてきた。早朝小田急で箱根湯本駅まで、そこから旧街道経由のバスに乗り換えて本陣跡で下車した。久しぶりの快晴だ。天下の陰の頂きは紅、橙、黄に染めた樹林帯が朝陽を受けて輝いている。上の方から紅葉が始まっていた。本陣跡から畑宿を歩くと寄木細工の店が軒を連ねていた。ろくろを廻している木工アトリエも何軒か目にした。

ここからは本格的な上り一方の坂道が延々と続く。苔むした石畳を踏みながら一步一步前に進む。勾配を増した所では喘ぎながら少し歩いては立ち休みをとる。この連続した行為をくり返すなかで、時を超え、古より峠を行きかた先人たちの労苦に想いをはせた。彼等の味わった辛さを「わがからだ」で追体験することができたような気がし、密かに悦びを憶えていた。この快感を味わいながら歩いて行くと一昔前の時代劇の道中物に出てくるような古びた甘酒茶屋に着いた。大勢の人たちで賑わっている。舌がやけどしそうな熱い甘酒で一息入れた。この先は1時間強で元箱根を越え大鳥居をくぐり蘆ノ湖畔に到着した。そこは予定の3時間内に着いた達成感と湖水を渡る爽やかな風で心地よかった。

またコロナの波はいつ押し寄せるか皆目わからないが、来春の新緑の映える頃にこの峠越えを再び試してみたい。ささやかな目標ですがこれを2022の第一の抱負にしたいと思っています。

### 「2022年はホップの年にしよう」

まつもと まこと  
松本 誠 (1966・商)

2022年は希望の年にしたい…と考えるのは多くの皆様と同じ。

希望?!さて人生100年時代と言われる昨今、あと20年余をいかに楽しく生きられるか!

100年を健康状態で楽しく生きる!病院に行くとベッドに横たわってフガフガの寝たきり老人が多い。息子や娘が見舞いに来ても、「あんた、誰だい?名前は?」なんて会話じゃとても楽しく生きていることにはならない。

酒を愛し、友と語りまた、時に異性への憧憬を夢想し・・・(バカ!いい年して・・・と叱られるかも)これが人生100年のチャレンジだ。

私の好きな言葉に昭和天皇がマッカーサー長官に表敬訪問した折、今のお堀のそばの第一生命館のGHQ司令官室に掲げられていたアメリカの詩人サミュエル・ウルマンの「青春」という額。そこには「16歳の青年でも未来を語ることが無ければ青春とは言えない。70歳の老人が未来を語るとき、そこに青春がある。」私は人生はチャレンジだと思っています。いつまでも元気にチャレンジしたい。

そうだ2022年はこのホップの年にしよう!

### 「大隈重信没後100年記念講演会」のお知らせ

■日時: 2022年1月10日(月・祝) 14:00(開場13時)~16:00予定

■主催: 早稲田大学文化推進部

※ライブ配信予定のオンラインではどなたでもご自由にご視聴いただけます。

内容予定

#### 第一部 講演

「大隈と福澤の交流を読み解くー近代日本の政治と経済ー」

#### 第二部 記念講演

「2050年の早稲田ーVision 150 and Beyond」

◆ 講演者: 田中愛治 早稲田大学総長

◆ 概要: 本学総長が、2050年に本学がめざすVisionを講演いたします。

◆ お問い合わせ: 早稲田大学総長室校友課

03-3202-8040

### ご冥福をお祈りいたします

福原 嘉一郎さん (1月)	旧教職員
吉村 信三さん (1月)	1959・理工
川田 敏朗さん (5月)	1957・法
瀧本 尚男さん (7月)	1963・法
黒澤 龍平さん (8月)	1951・理工

川柳「稲穂会」(令和三年八月二十七日)

「兼題」(オリンピック・五輪)

○ マスコミの手のひら返し金メダル 森川紀一

「自由句」

○ 豎琴の音は砲弾にかき消され 小坂 強

○ 肅清で官僚細るスガーリン 田坂忠俊

○ ワクチンの接種が済んだ何やろか 小美濃隆

○ 案の定しどろもどろの名古屋弁 市川 毅

○ 俺の場所 ステイホームで何処にある 片岡冬里

○ 冬の季語マスク今では季節無し 森川紀一

○ ステイホーム 焼酎疲れにうつ発症 星田正風

○ 老夫婦 濃厚接触 懸念なし 諸江昭旦

○ 民捨てて 後は知らぬと 大統領 太田資暁

俳句「稲穂会」(令和三年十月二十日日本町コミセン)

「万歩計見る楽しみや草紅葉」 つよし(市川 毅)

「おつかれさま」 さちこ(中村幸子)

「坐れよと凭れよと岩残る虫」 さちこ(中村幸子)

「晩秋のひと時を憩う」 さちこ(中村幸子)

「落武者を癒やせたりしやましら酒」 麟 太(川崎大八)

「関ヶ原でやぶれた石田三成はきつと癒されたにちがいない」 さはる(栗間早春)

「虫すだく厩舎の闇のやはらかさ」 さはる(栗間早春)

「馬も夢をみるかしら」 さはる(栗間早春)

「車座で不老を語るましら酒」 秋 雲(川島隆慶)

「酒は飲むべし」 秋 雲(川島隆慶)

「もう一軒夜寒の街の一人酒」 広 治(池田宏治)

「夜寒」 広 治(池田宏治)

「速足(トロット)の馬上の新人竹の春」 正 風(星田 正)

「成蹊大学馬術部新入生の乙女たちの颯爽たる騎乗ぶり」 正 風(星田 正)

会費納入のお願い

令和3年度(2021年度)武蔵野稲門会費2,000円を下記郵便振替口座へお振込みください。加入者名:武蔵野稲門会 口座番号:00150-8-190961

同好会/世話人

○囲碁(イナゴ)会

毎月第2、第4週の火曜日、中央コミセン 世話人 人選中

○ウォーキング会

馬場正彦 080-5937-2767

○温泉と景観を楽しむ会

年2回程度(1泊2日) 中山美代子 0422-22-8862 徳田直子 0422-43-2773

○カラオケ部会

奇数月の第4水曜日 18時~22時 山内 巖 0422-54-1475

○クラシック音楽同好会

年1回コンサートを開催 山本富士雄 090-5194-3086

○ゴルフ(平野杯)部会

年2回(春・秋) 堀 裕一 090-3212-0052 大石 仁 080-5170-4122

○三水会

毎月第3水曜日18時~ 諸江昭雄 080-1060-7291 谷内隆衛 080-6814-1868 片岡冬里 090-9640-7202

○シネマ倶楽部

杉原鉄夫 090-2675-9391 福田晴美

○写真同好会

山下倫一 090-2626-2935 宮崎幸二 090-9005-8203

○俳句・川柳の会

俳句「稲穂会」: 偶数月第3水曜日 13:30-15:00 本町コミセン 星田 正 0422-53-5436

川柳「稲穂会」: 3ヶ月毎

太田資暁 0422-20-1705

○テニス部会

月2~3回 谷岡 聡 080-2081-9702 角田正三 0422-56-3162 谷内隆衛 080-6814-1868

○マーじゃん部会

偶数月の第2土曜日 松本 誠 090-3204-4355 牛込秀三 080-1349-1009

○もっと早稲田を応援する会

箱根駅伝、レガッタ、野球、ラグビー、など 諸江昭雄 080-1060-7291 川崎大八 090-6305-3275

○若手の会

偶数月の第3ウィークデイ 堀 裕一 090-3212-0052 根本洋子 080-5004-1600

当会の活動については、武蔵野稲門会ホームページをご覧ください。

<http://musashino-toumon.info/information.html>

編集後記

「普通の生活」のありがたさを感じた2年弱でした。まだまだ油断はできない状況で新型コロナと人類がもぐらたたきさながらに戦っているような感じです。武蔵野稲門会の活動も様子を見ながら元に戻って、さらに活発化してゆくことを願っています。(徳田)